

## 「事業」ではなく、「理念」承継に300年の真髓あり ～「箔を付ける」ことにより、本来の価値を高める～



代表者/代表取締役 堀 智行 氏

### 【10代目社長 ナマ語録】

- 『和』を大切にみんな仲良く、信用第一!!
- 「1万分の1ミリの金箔は、金属と言うよりも液体の感覚」
- 「みんなが悩まないように、自ら「ホリキン」と名乗っています」
- 「箔押しだけでなく、機械も、機会もプロデュースします」
- 「金地金で儲けません」（金取引の誘惑に負けない）
- 「金だけじゃない」、「銀は成長する」
- 「手回しせねば雨がふる」

京都で金箔ひとすじ300年の歴史を持つ老舗として、多くの文化財や著名人の作品に愛用されてきただけでなく、箔の表現にこだわり多彩な商品開発とコラボによって金属箔・粉の新たな可能性を追求し、海外進出も目指す堀金箔粉株式会社10代目の堀 智行社長にお話を伺った。

### 厚さ1万分の1ミリという金箔粉



店頭で目をひく金箔の山

「金」をうすく延ばしてつくる金箔の生産は、そのほとんどが金沢の町で職人の手により行われており、家内制手工業的に紙の仕込みから箔の仕上げまで分業されています。当社も金沢の職人に金地金を提供して金箔の生産を委託し、できあがった「箔」を当社で最終仕上げし「金箔粉」として伝統産業を中心にお寺や仏壇など和装、陶器・漆器、絵画などのもの作りの脇役として金箔の生産地「金沢」と消費地「京都」を結び付ける役割を果たしてきました。

### 【トラディッション&チャレンジ】

昭和25年に消失した金閣寺の再建にも使用され、京都を代表する織物である西陣織の金糸にも使われるなど、様々な工芸品や作品に彩りを添えて参りました。

また、近年では国宝や文化財の屏風絵などの複製事業に関わりを深め、様々な方法で金色を再現することに挑戦することで内装関係や建築資材への加工技術も磨くことができ新市場へ参入することができました。

基本精神として創業以来貫いてきた「絶対の品質」を大切に、決して「値段」では競争しない、品質で良いモノを作って納めるなど「絶対的な信用」を第一に、金箔を進化させてきました。当社で

は、「とりあえずやってみようやないか」の精神を大切にしながらも、金箔や金粉という系統からは離れることがないように常に心がけています。



コラボで生まれた金銀紙



建築装飾サンプル

### 明文化されていない社訓と家訓

「和」をもって、みんなが仲良くすることを最重要理念として継承しており、さらに①適正規模の経営、②信用第一、③伝統とは革新の連続と続きます。①「適正規模の経営」では、本業を第一に「屏風と商いは広げすぎない」のように「箔・粉・金属」などを基軸として商売を展開しております。例えば、得意先は1社に集中することなくリスクの分散を心がけ、社運を揺るがすような大きな投資をせずに「目先の売上や拡大より継続」を判断基準としています。また、②「信用第一」では、無理に値切ったりせず、すぐに支払うことで取引先との良好な関係を築いておくほか、金箔業では現金で金地金を購入するため、常に手元に現金を用意しておかなければならず、財務上、無借金経営かつ自己資本比率85%以上を維持しております。③「伝統とは革新の連続」では、「手回しせねば雨がふる」という言葉で継承しており、これは現状に甘んずることなく、次の時代に備えること、今ある商品を超えることを常に心がけています。

堀家では、「一人一業」を代々継承しており、兄弟が何人いても商売を継ぐのは一人だけです。男兄弟がいても長男が継ぐとは限らず、一番商売に向いている者が商売を継ぎ、兄弟で同じ仕事をしない。ただし、家業を継ぐ者は商売だけでなく、地域のことや親戚関係などその他のことも全て責任を持って引き受けることになっています。また、兄弟間に相続に対する不公平感がないよう、財産は土地・株式を分散せず、現金で相続してきたおかげで、300年間相続問題は起こりませんでした。



昭和初期の店先

#### ほりきん 堀金ファミリー 【強み】

会社の福利厚生の改善を常に心がけており、行事も頻繁に楽しめるものを企画し、費用は全て会社負担して社員旅行を毎年欠かさず実施しています。300周年式典後の二次会では、社員とその家族やOBが集まるなど堀金ファミリーとして社員をとて大切にしています。ですから社員の定着率が非常に良いことが自慢です。社長だけでなく社員も二代目、三代目へと引き継がれているのも当社の特徴であり、堀金イズムが社員間に浸透するなど大きな強みとなっています。

#### 食べる金箔 【チャレンジ】

最近では、転写フィルムや食品用に使用される金箔が当社の得意分野となり、食品用金箔はお酒やお菓子、お料理に利用されています。特に日本酒では大手メーカーからも安心してご利用いただいています。当社の金箔が採用される決め手になったのは、当社が最初に食品用金箔に特化したものを開発したこと、異物混入などのクレームが発生しない厳格な検品体制など「品質の信頼感」だと考えています。なお、食品用金箔と工芸用金箔の違いは、工芸用が金／銀／銅の合金に対し、食品用として使用するために金と銀だけの合金で金箔を生産し、ISOで品質を管理しています。

#### 偽造防止技術 【コラボ】

金箔屋さんが偽造防止技術というと大変驚かれることがよくあります。どうして偽造防止技術があるのか？当社は、幅広い分野でものづくりをされている企業との取引があり、これがご縁でものづくりとものづくりの橋渡しをする機会に恵まれています。このビジネスチャンスを活用し、市場ニーズに合わせて他社の得意技術を結集させブラックボックス化して独自技術による新

製品として提案できるのが大きな強みとなっています。偽造防止技術では、紫外線を当てると色が変わったり、開封確認に必要な「転写」や「マイクロカット」の技術は、当社独自のものではなく、当社営業のプロデュースにより協力会社の技術を組み合わせて完成させたものなのです。

#### 訪問営業から展示会営業へ 【チャレンジ】

当社にとって異分野の展示会へ出展することでより注目を集めることができました。最近では訪問営業から展示会営業で成果を上げています。国際印刷総合機材展では、同業者や異分野業者から注目されるなど集客効果が認められ、そのゾーンでナンバーワンブースに選ばれました。

特に「デジタル・オンデマンド対応の箔押し機械」は、印刷の世界における「デジタル」、「小ロット」、「オンデマンド」のニーズに合致し注目されました。

#### 銀の成長 【チャレンジ】

取扱商品は素材やカラーバリエーション、規格などを合わせると2,000種類ほど持っており、同業者でもこれだけの商品ラインナップを揃えているところはほとんどないと自負しています。

「金箔」を軸にあらゆる金属の箔や粉を取り揃えております。

例えば、銀は変色の過程で金色→赤色→青色→最後に黒色＝「いびし銀」へと変化します。私はこれを変色ではなく「成長」と呼んでおり、銀をわざと硫化させた赤色やいびし銀も商品として根強い人気があります。

#### 今後の抱負

今後の課題としては、海外への市場を開拓していきたいと考えています。現在、中国人2名と韓国人1名の社員が在籍していますが、アジア中心に中国・韓国・タイなどへ海外取引していきたいと考えており、販売対象商品は「工芸」だけでなく「工業」分野にも挑戦していきたいと思っています。



職人熟練の技で打ち上がった金箔（このあと手作業で1枚ずつ裁断）

#### Company Data

代表者／代表取締役社長／堀 智行  
所在地／〒604-8095 京都市中京区御池通  
御幸町東入大文字町356  
設立／正徳元年(1711年)  
電話／075-231-5357  
資本金／1,000万円  
従業員／36人  
事業内容／各種金属箔粉の製造及び販売

#### 堀金箔株式会社



お問い合わせ先

京都府中小企業技術センター 企画連携課 企画・情報担当 TEL:075-315-8635 FAX:075-315-9497 E-mail:kikaku@mtc.pref.kyoto.lg.jp